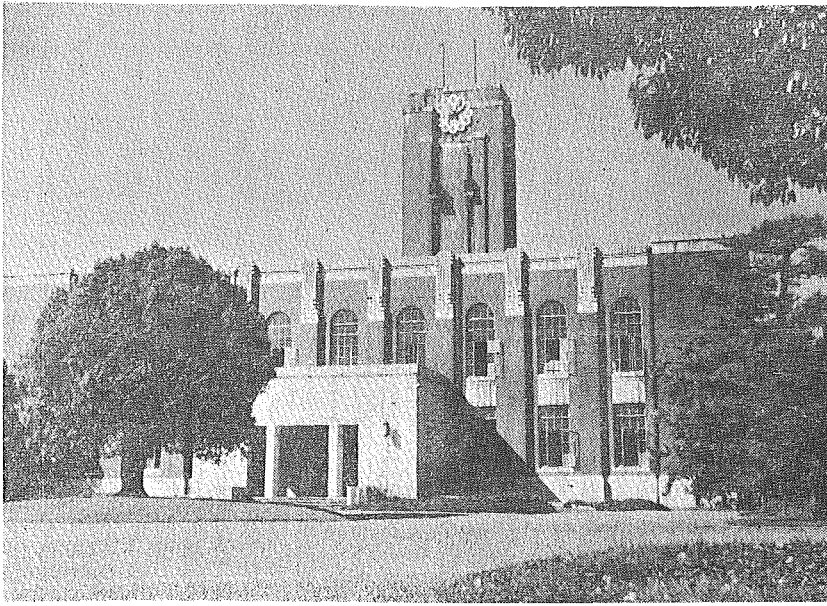


落友会々報

京都市左京区吉田
京都大学工学部
電気科教室内
落友会

会報十四号では先代の静な穩な本館の姿を御覧に入れた。今回は現
在の本館の姿。大空に聳えた時計台。これが有名な京大時計台。この
下で××事件、□□事件、△△事件、○○事件等々。何という荒々し
い事件が起つた事であろう。或は、まだ起るであろう。時計台でなく
事件碑か？。



三十一年を迎えて

旧曆を持ち明けまして御芽出度う
御座います。我々の落友会は年を重
ぬるに従つて隆盛になつて居ります
が、多少倦怠の気味が見えて来まし
た。何卒、旧に倍して御協力下さる
様御願ひ致し、我々の責務を完遂し
たいと祈つて居ります。

本部、支部、役員一同

ベルリン便り

昭23 清水 照久

〔阿部先生の許に來ましたのを御
許しを得て掲載します〕

先生御元氣でしょうか。三〇年の
春渡欧しましてから早くも一年の月
日が去らんとして居ます。種々の思
いを胸に、初めて見る異国の風景、
夢の様に思えます。今日は先生の知
つておられる昔の独乙と私の見た今
の独乙と多少の相異があるのではな
いかと思ひ筆を採りました。

ベルリンの町は今東独の中に浮島
の様に残された唯一の西独地区で
す。人口約四百万、中、西ベルリン
三百万と言われています。ブランド
ンブルグ門・ポツダム広場を結ぶ線
を境界にして東西に分れ、西ベルリ
ンは更に米・英・仏地区に寸断され
ています。中の中心街ウンター・デ
ンリンデン、マルクス・エンゲルス
広場、アレキサンダー広場、ポツタ
ム王宮等皆東ベルリンで西ベルリン
はシャロッテンブルグ中心に復興し
ている状態です。ティアガルテンに
ある昔の日本大使館も今は空墟で唯
淋しく菊の紋章だけが戦災を受けず
に光つて居ます。東・西は夫々別々
に火力発電所を有し系統は連絡して
ありません。市電・市バスも別々で
境界迄しか通じていません。唯省線
と地下鉄が両地区を連絡して居る

由に出 來ます。冒険とは思いま
したが、私も一度だけ東ベルリンに
参りました。西と東は復興の度合が
段違で、人々の服装、家々の照明等
明暗を判きり絵に書いた様です。で
も西ベルリンとて完全に復興された
ので無く道に未だ戦の後を見る事が
出來ます。現在ベルリンに在任する
日本人は約十二名で(総領事館員を
含む)淋しいのですが、東ベルリ
ンには支那、朝鮮からの留学生が相
当數來ている由です。西ベルリンに
は支那料理店が三軒あり欧州化され
た支那料理で、私も時々参り御飯を
ハンで食べます。その他昔のカイザ
ーウイールヘルム一世記念教会は西ベ
ルリンの空に戦いの後を物語る様に
戦災を受けたまゝ立つていて、その
附近が現在で一番繁華街になつて
います。町々にはネオンの照明で美
しく特に近頃はクリスマス装飾が
目をうばいます。私は東独の浮島ベ
ルリンを何故独乙人が必死になつて
復興しているのか不思議に思いま
す。近くに大炭田・大鉱山がある訳
でなく今ここに大大会社としては
シメックス・AEGの電気機械の製
造会社で他の重工業は殆ど西独の獨
仏国境に集中しているのに、独乙人
は何故不便な西ベルリンを一生懸命
復興するのか？私は独乙民族の民族
性の芯を見る様に思ひます。きつ
とドイツ大帝國の主都はベルリンで
ある。東西両独統一の時は主都はこ
こにあるべきだと言つた一つの大き
な感情から來ている様に思われま
す。西の世界の入組んだ町、世界の
スピッツを集めて復興する町、これ
が今のベルリンです。独乙人程自尊
心の強い國民は他に無い様に思いま
す。自分のする事自分の考える事が
最上のものであると云う自負を持
つて居ます。親切な反面必ず大きな自
尊心を有し、時々技術上の問題等で
、その自負に傷付け様ものなら、血

を逆上させて議論の鬼となり喰ひ付
いて來ます。日本人の私として感じ
の悪いと思われる程の、又時により
間違つていても、彼等の自尊心は一
つの大きな民族の骨になつていて、
この感じの悪い、ケチンボな独乙人
が独自の力で今世界市場に發展して
行く様は私には大いなる刺激であり
ます。感じの悪い民族ですが偉いと
思います。彼等は日本人と違つて言
いたい事を言ひ自分の意志を發表し
て、実行してゆく勇氣と力を持つて
居ます。この民族の芯が今再び De
utschland, Deutschland, Über
Alles の合唱と共に野に山に高ま
り、一大富強國となりつゝある独乙
の根本では無いかと思ひます。吾々
若き日本人も彼等と学ぶべきは学ん
で、力強く歩まねばと本心に胸にひ
しひと感じます。戦後技術面にお
いてもアメリカの力を大きく受けた
日本も今欧州の特に独乙の技術に眼
を開いて考え方の相異を学ばねばな
らぬと思ひます。ベルリンも寒くな
つて参りました。雪が降つたりやん
だりで、日光を浴びる事が月に一回
もありませんが、陰気な天氣が続きま
す。先生もどうか御元氣で御暮し下
さい。

(富士電機製造株式会社勤務)

東京支部遠足会記事

東京支部の恒例のレクリエーショ
ンは十一月十三日、折柄の好天に恵
まれ堂々四台の大型観光バスを連ね
て三浦半島を一周、成功裡に終つ
た。

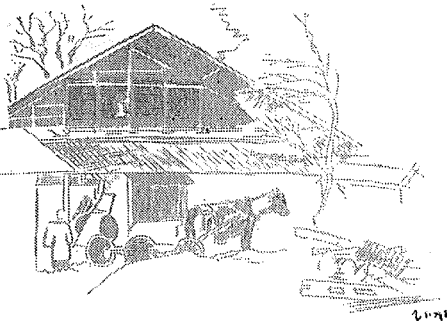
長雨続きの秋で心配された天候も
今日はやはりカラリと晴れ渡つた好
天で全員大喜び、勇んで新宿に集
合、精進の良さを自慢し合つた。九
時半に出発、一路南に向えばやがて
うるわしいウグイス嬢の声、「本日
の○○運転手は××観光随一の老練

な運転手でありまして、皆様のお身体は責任をもつてお預り致します。どうぞ今日一日ごゆつくりお寛み下さい」と嬉しい挨拶に一同苦笑いをする。

さらに両側の景色に目を楽しませ乍らウケイス嬢の説明に聴き入る内、早や横浜を通過する。ここではみそらひばりが生れたと云う路傍の魚屋、そして高く丘の上にそびえる現在の彼女の住居との対照を見て、現在の世の移り変りの一片を見る。これも今様社会科の見学の一つであつたかも知れない。

金沢八景を過ぎる頃よりポツポツ海岸の景色も見え、そろそろ今日のコースの佳境に入る。そして十二時には早やペリ渡来の記念碑のある久里浜公園に到着、小憩を取る。一望千里(?)の大海原の眺め、(前方には房総半島がある筈なのに今日はガスが立ち籠めていて遠景は何も見えない)。は日頃目まぐるしい都邑の動きに疲れた目を何よりも慰め休めてくれてうれしく、足下よりゆるく弧を画く白砂長汀は幕末の頃、太

青柳先生のスケッチ



平の眠りを覚した四杯の上喜撰(黒船)の様子が思い浮べられてそぞろ感を催す。

これより車は暫く海と別れて走ること約三十分、急坂を下ると見るや忽ち眼前に開ける港こそ、名にし負う三崎の陸揚地、三崎港である。流石にこれは漁港特有の威勢の良さを感じられ、バスを降り立てばブーンと鼻を突く磯の香も東京では見られない雰囲気である。

これより希望者のみ遊覧船に乗り他はバスで油壺に行く事としたが、バスに残つたのは約十五人位、他は全部遊覧船組となり、バスは殆ど空車で油壺に廻送する。

早速乗船の段となる。洞爺丸、相模湖と相次ぐ船の事故の後だけに乗船し乍らも「この船は沈没しないか」「定員を越してはいないか。」等々の雑言しきり船の側でも心得たもので「本船の定員は大人五百五十人小人なら三百人で大丈夫です」と応酬。成程船の正面にも定員は大きく明示されていて一応安心する。乗船者数も数えていたが結局支払つた乗船料が百三十人分だったので何れにしても先づは大丈夫と云わねばならぬ。

船は直ちに船を返して港外目指して進む。早速始まる船内放送の説明を聞きつ、両側に並ぶ多くの漁船や倉庫等見慣れぬ景色を楽しむ間に早くも船は港外にさしかる。今日は風一つない静かな日ではあるが太平洋に面する港外では流石に静かなうねりに船は動揺を感じる。水は黒々と光り黒潮とはかくやと思はしめ、又この水が直ちに鯨潮吹き氷山漂う南水洋に連なるかと思えば、心躍り血潮の湧くのを覚える。晴れた日には噴煙上る伊豆の大島や、海に映える富士の麗姿も見える由だが今日はガスの為に残念乍らこれ等の遠望は利かなかつた。

内での子供達

の喜び様は格別で、城ヶ島をパツクに写真撮る家族、舷側より水を覗き込んで親をハラハラさせる元氣者等賑やかなこと又一しおであつた。かくて雨ならぬ南の太陽に輝く城ヶ島を右に見ながら海の空気を満喫すること四十分で油壺に着いた。

油壺で約一時間半の休憩後、再び車を連ねて帰途につき。半島の西岸を一路北上、長者ヶ崎の絶景を見、葉山、逗子を通つて再び元来た道を帰る頃には日も漸く暮れ初めてそろそろ退屈する頃より今度は各車輛毎にマイクを廻して各自、自己紹介等をやる。中には漫談をする雄弁家、婦人の意見を述べる奥さん、親爺に一言申す優秀な息子等々、つきせぬ変化を楽しみ、車に揺られて程よい疲れを覚えつ、六時半に新宿帰着、目出たく解散した。

な本日参加者は七十家族、百八十名で、他に乳幼児約二十名、合計二百名の大盛会であつた。(支部幹事 泉 秀雄記)

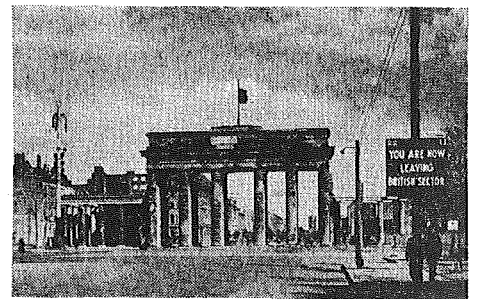
随想

松田長三郎

青柳先生のスケッチ・ブック

青柳先生は、古い卒業生の方々は御承知の通り、よく科学的研磨とか、常識の涵養、宗教的信念とか、時宜に適した標語を掲げて説話せられたが、今に感想の深い思い出である。私共の学生時代からの先生は、酒や煙草はおやめになりました、特に禁酒は大いに奨励せられた。酒の上では、この人がと思う人が節度を失ひ、平気で随分人に迷惑をかけ、又かけられたものも寛容である。お互に心すべきことと思う。先般先生のスケッチ・ブックを拝見したので、当時のつれづれに物せられた雅筆の跡

ブランデンブルグ門今昔



伯林にて

昭23 清水 照久

一九五五年も今暮れんとしています。自分の歩んだ二年間を考えると時の早く過ぎ去つた事、驚く程です。ベルリンに参りましてから七ヶ月シーメンスの工場で彼等の考え方、技術の程度、色々知り得て、時には大いに技術上のケンカもし、時にはやりこめられ、思えば夢の様です。ベルリンの工科大学で時々新しい問題の講義があり参加して聞かれています。又独乙人は仲々ケチンボです。でも彼等の持つ大きな力を見、学びうる事は大変幸いと思つています。(富士電機製造株式会社勤務)

宿所 Bei Knitter, Berlin Siemensstadt Jungfernheideweg 13 I.

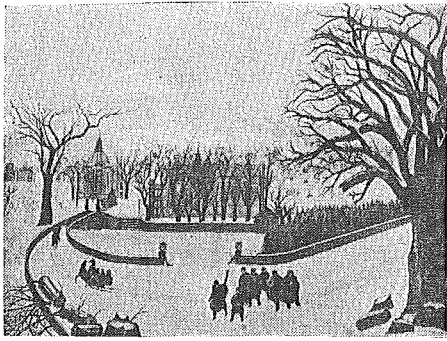
を偲びたいと、特に乞うて掲載させて頂いた。

○一步一步の照顧

前号の本会報に、私が東京で怪我をしたことが記載せられてあつたので、いろいろお尋ねを受け、有りがたくも、又恐縮している次第です。昨夏七月、東京の宿舎で、よく磨かれたリノリウムの床上で、うつかり滑つて腰を打ち、大したことは思わなかつたが、そのために夏休み中、臥床しましたが、最早元氣でいますから御安心下さい。その際、三菱電機の方々には大変お世話になりました。人間、何処に不測の災難がひそんでいるか判らぬことを痛感し、爾来、一歩一歩を注意する気持ちであ

○人間の修練

近頃は東京以外はあまり出掛けませんが、最近一兩年のうちに、高知福岡、広島など、各地を旅行して、卒業生各位の温かいお世話になつたことは、数々の懐かしい思い出とともに感謝に堪えない次第です。旧臘十二月、金井、佐伯両氏の御尽力で、照明学会北陸支部が、従来の中部支部から分離創立されることになつたので、同地方に旅行する機会を得、学界、業界の実情を拝見し、又校友会の方々にも大変お世話になり、各界において大いに活躍しておられる有様を、目のあたり見せて貰つて非常に嬉しく、又心強く感じ



米国 ICA の招きにより日本重電機チームとして米国に参りボストンで林先生に御目にかかる事が出来 M I T も案内して頂きました。すき焼を食べながら故国を思いうかべています。日立 橋本真吉

はからずもボストンにて林教授と同席、大橋橋本、富永、真に奇しきえにしといつべし トミナガ

絵はがきの説明

Musicians in the Snow American 19th Century. M. and M. Karotic Collection. Museum of Fine Arts, Boston.

た。時偶々金沢鉄道監理局管内の年末闘争に際し、管下従業員(二〇〇名を有する小柳局長(昭和7年卒業)の御心労は、さこそとお察ししたが、悠々たる態度で、双方満足に妥結せられたことは誠に喜ばしく、又敬服の至りであった。帰来、学生諸君にも、学業の必要は勿論であるが、やはり人間の修練、結局は「誠心誠意の問題」と、お話しした次第でした。

(一九五五年十一月十三日付)

予 餞

一月十六日楽友会館で懇話会主催本年卒業せんとする学生の予餞会が開かれた。

先づ関西電力常務の一本松珠璣先輩が「原子力発電について」の感銘深い講演に始まり、次で予餞の言葉、祝辞、答辞などあつて開宴。先輩のテーブルスピーチがあり盛会であつた。最後に野田先輩の発声で卒業せんとする学生の前途を祝福して万歳を三唱した。その声は、吉田の眷属に静に消えて行つた。

参会者百七十名を越えた。

関野彌三先生を訪ふ

明治三十三年に電気教室に封任され第一回の卒業生から昭和十三年の卒業生まで御存じの先生である。御自宅にお訪ねすると八十一才にならる先生は、昔のまゝのお話振りで懐しかった。内臓は何処も悪くないが、歩行が外出に危いだけで家に籠つて用心しているとのお話。教室の昔話など興味深く拝聴した。「御大事に」とお別れの御挨拶をする。「洛友会の皆様によろしく」と先生は玄關まで見送つて下さつた。

(一月十六日山村、工藤)

訃 音

高橋 本枝君 (明三四卒)

第一回卒業生の同君は八十才の夭寿を全うし、旧臘六日逝去されました。本会は交川東京副支部長に代拝を頼み、弔詞を呈し謹みて哀悼の意を表しました。

橋本篤四郎君 (昭二卒)

北海道電力株式会社取締役工務部長の君は、予て病氣療養中のところ前途有為の才を惜しまれつゝ、旧臘四日逝去されました。本会は弔電を靈前に供へその冥福を祈りました。

洛友会費領収

昭和三十年年度 (第四回の続き)

昭四	本中	角市	竹上	武雄
四	阿部	英一	安達	遂
五	福井	佐市		
七	井上	勲夫		
八	富川	茂彦		
九	松井	茂彦		
〇	井上友一	郎	大塚	好造
一	杉本	省一		
二	川村	恕一	早東	嘉夫
三	伊達	進		
四	国富佳寿郎			
一六	生田	努	坪井	達夫
一七	侯野	弥造		
一八	森本	芳夫		
一六	豊田	実	野村	誠夫
一七	古川満智雄			
一八	藤井	克人	清水	通隆
一九	松本	登		
二〇	西原	宏		
二一	吉田	深		
二二	太田	勇	長岡寿一郎	
二三	太田	実		
二四	山口	四郎	高橋久二郎	
二五				

Handwritten signatures and notes, including names like 関野彌三, 橋本篤四郎, and others, along with dates and amounts.

昭和三十一年度

昭二	今田	英作	伊藤	定昌
四	村田	真治		
六	野際	幸雄		
一〇	殿井不二雄			
一三	松石	源三		
一四	内藤	正義		
一九	松本	登		
二〇	高井	公雄		
二八	籠	宗和		

昭和三十年年度 (第五回)

昭三	木川	才藏	山岡	景範
四	高橋	保		
五	古田	正康		
二	浜西	伝次	川崎	圭三
三	山口鉄四郎			
四	竹内	太郎	吉野	錦三
太田	二郎			

Large handwritten calligraphy, likely a dedication or a message, mentioning names and dates like 三月十九日.

七	富満	通哉	藤野千代治
六	中沢	博	
五	萩原	一陽	
四	石垣	梯次	
三	井田	清	
二	小泉亮一	郎	
一	中島	武平	
〇	松井	貞信	
九	齋藤	次雄	
八	岡	守義	
七	浦生	守義	
六	田村	雄一	
五	加藤	兼三	
四	坪井	好人	
三	八条	健三	
二	栗本	周六	
一	林	芳樹	
〇	吾郷	侃二	
九	依	三九郎	
八	関	長成	
七	渡部	兼雄	
六	福島秀次郎		
五	山崎	詳三	
四	岩本	勝弥	
三	平	聖太郎	
二	森谷	三郎	
一	保寿	康象	
〇	笠原	弥一郎	
九	永井	就一	
八	久高	将吉	
七	池田	経壽	
六	中嶋	省三郎	
五	土屋	弘成	
四	田村	修	
三	中村	喜一	
二	口羽	玉人	
一	白川	孝男	
〇	小西	孝男	
九	稲垣	清明	
八	神先	藤五郎	
七	久野	清	
六	小西	信市	
五	平野	克己	
四	河本	勝壽	
三	青木	三郎	
二	中谷	哲夫	
一	宇野	茂道	
〇	溝口	毅	
九	鈴木	茂	
八	桂田	徳勝	
七	藤野	千代治	

